

使 徒 信 条

参考図書：わたしの使徒信条 藤本満著 いのちのことば社
ハイデルベルク信仰問答

私は天地の造り主、全能の父である神を信じます。

1. 私は天地の造り主を信じます

創世記 1 : 1-3

日本の教育は進化論一辺倒です。一方で、天地の造り主を信じる多くの科学者が世界中にいます。科学イコール無神論ではありません。科学はもともと神が造られた世界のすばらしさを研究する学問でした。「神は仰せられた。」ことばによる創造は、神は創造のみわざの中に明確な計画、意志、目的をもって造られたということです。また、神が私達一人一人も神の計画、意志、目的をもって造られたということです。

詩篇 139 : 13-16

私達には、生きる意味や目的が神によって与えられているのです。

日本の神々は現世的なご利益を求める人間が造った神です。けれども、聖書が教える神は、天地を造り人間を造った神です。天地の造り主なる神を信じる時に、私達は人生の意味や目的を知って生きることができるのです。

2. 私は全能の神を信じます

創世記 17 : 1

神は全能の神なので、無から有を造り出し、天地を創造されました。

全能の神は99歳のアブラハムに現れ、「あなたは多くの国民の父となる。」と約束されました。そして、翌年アブラハム100歳、妻のサラ90歳の時に約束の子イサクが生まれたのです。

神の全能性と人間の限界は対になっています。

マルコ 10 : 27

「それは人にはできない」私は有限であり、無力であり、できないとへりくだる時、「どんなことでも神にはできる」という神の全能性がわかります。

ルカ 1 : 37, 38

マリヤは御使いから救い主を身ごもったと伝えられた時、「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人をしりませんのに。」と常識的に不可能であると言いました。けれども、「神にとって不可能なことは一つもありません。」との御使いのことばを信じ、「あなたのおことばどおりこの身になりますように。」と答えて、全能の神を信じました。そして、そのとおりに救い主イエスをみごもり出産することができました。マリヤの身にはその後、幾多の試練が訪れましたが、「あなたのおことばどおりこの身になりますように。」と全能の神に信頼して、神にゆだねて歩みました。

3. 私は父なる神を信じます

マタイ 6 : 9

イエスは天地の造り主、全能の神が、天の父なる神であることを教えられました。

神は人格を持つお方で、私達に父と子という親しい関係を持つことを願っておられます。

父なる神は權威に満ち、愛に富んでおられるお方です。

マラキ 1 : 6

天地を造られ今も支配され、私達を造って今日も生かしておられる主なる神を、私達が恐れ、敬って生きる。そのことが人間としての正しい生き方です。

ヨハネ 3 : 16

私達を愛し、私達を救うために愛するひとり子イエスをお与えくださった神を、私達も愛し、信じ、従って生きる。そのことが人間としてのふさわしい生き方です。

私はそのひとり子、私たちの主イエス・キリストを信じます。

1. 私は私たちの主イエス・キリストを信じます

マタイ 22 : 41-44

イエスは私達と同じ人間です。そのことについては次回学びますが、イエスはまた父なる神と同じ、天地の造り主、全能の神でもあられます。

パリサイ人は、キリスト(救い主)をダビデの子(子孫)だと言いました。聖書は確かに、救い主はダビデの子孫として生まれると預言しています。けれども、「ダビデの子孫」だけを考えると、救い主は普通の人間ということになります。それに対して、イエスはダビデ自身がキリスト(救い主)のことを「主」と呼んでいることを教え、ご自分が「主キリスト」であることを教えられたのです。

「主」とは旧約聖書で「神」を意味する言葉です。ですから、イエスはご自分が神であり救い主であることを語られたのです。

マルコ 2 : 27, 28

イエスの弟子たちが、安息日に麦の穂を摘んで食べました。それを見たパリサイ人が、なぜ弟子達は安息日にはしてはならないことをするのかとイエスに尋ねました。ユダヤ教は安息日に働くことを禁じ、麦の穂を摘むことも労働に当たると考えました。それに対してイエスは、安息日を守るという律法の主旨を取り違えていることを伝え、安息日の意味を教えました。

そして最後に、「人の子(イエス)は安息日にも主です。」と言われました。安息日は主なる神を礼拝する日です。そして、イエスはご自分が安息日に礼拝される主なる神であると言われたのです。これは当時の人にとって、驚くべき宣言でした。けれども、イエスがまことの人でありつつ、まことの神であるので私達のキリスト(救い主)となることができたのです。

「私は私たちの主イエス・キリストを信じます。」「イエス・キリストは主です。」この信仰告白こそ、キリストを信じる信仰の告白です。

2. 私はひとり子の神を信じます

ヨハネ 1 : 1, 18

「ことば」とは、イエス・キリストのことです。「初め」とは天地創造の前の永遠のことです。ですからキリストは、永遠に神とともにあり、キリストは神であったのです。

では、神とキリストとはどのような違いがあるのでしょうか。キリストは「父のふところから来られたひとり子の神」であると聖書は言います。すなわち、神には父なる神と子なる神がおられ、キリストは父なる神と共におられる子なる神なのです。(聖霊なる神については後で学びます。)

父なる神と子なる神は、それぞれ異なる人格(位格)を持ちながら、同じ神としての本質を持っておられます。

ひとり子の神であるキリストは、人間となって世に来られました。人としての名前がイエスです。そして、目に見えない神を父のみもとから来られたキリストが解き明かされたのです。

ヨハネ 14 : 9

イエス・キリストは、「私たちに父を見せてください。」と言ったピリポに、「わたしを見た者は、父を見たのです。」と言われました。イエスは父のもとからこの世に来られ、父なる神と神のみこころを解き明かしていただきました。ですから、イエスの教えは聖書の正しい解き明かしです。また、イエスは父なる神と同じ神としての性質を持っておられるので、イエスを見た者は父なる神を見たといえることができます。

私達は肉眼でイエスを見ることはできません。けれども、イエスが解き明かして下さった聖書のことばを通して、神がどのようなお方を知ることができます。そして、イエスをひとり子の神と信じる時に、父なる神を信じる者となるのです。

「私はひとり子の神を信じます。」とイエス・キリストを覚えて、信仰の告白をしましょう。

私は聖霊によってやどり、おとめマリヤより生まれたイエスを信じます。

1. 私はおとめマリヤより生まれたイエスを信じます

ピリピ2：6，7

世界には、人が神になると教える宗教がたくさんあります。仏教は人が死ぬと仏になると教えます。また神道では、功績のある人が死ぬと神となって神社に祭られます。しかしキリスト教は、神が人となられたキリストを信じます。キリストは神であられるのに、神の栄光を捨てて、へりくだり、人間となってこの世に來られました。「おとめマリヤより生まれ」とは、神が人となってこの世に生まれたという意味があります。

マタイ1：23

イザヤはイエスが生まれる700年も前に、救い主は処女から生まれると預言しました。そして、そのとおり、イエスは処女マリヤから生まれたのでした。処女より生まれるとは、人間の介在なしに、聖なる神が罪のない完全な人間となって生まれたことを意味しています。神であるイエスが人としてこの世に來られたことによって、「神が私たちとともにおられる。」というインマヌエルという約束が成就したのです。では、どのようにして処女マリヤがイエスを産むことができたのでしょうか。その方法が「聖霊によって」ということです。

2. 私は聖霊によってやどり、おとめマリヤより生まれたイエスを信じます

ルカ1：35

御使いがマリヤのところに來て、「あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。」と言いました。マリヤはその言葉に戸惑いました。なぜならマリヤはその時処女であり、処女である自分が男の子を産むことなどありえなかったからです。そこでマリヤは御使いに言いました。「どうしてそのようなことになりえましょう。私はまだ男の人を知りませんのに。」すると御使いは答えて言いました。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたをおおいます。それゆえ、生まれる者は、聖なる者、神の子と呼ばれます。… 神にとって不可能なことは一つもありません。」

全能の神が人間にとって不可能なことを可能にしてくださるのです。ですから、聖霊なる神がマリヤに臨まれる時、全能の神の力が彼女をおおい、男の子を宿し、そして産むことができたのです。そしてマリヤが産んだ男の子は、子なる神が人となられた救い主イエスだったのです。

マタイ1：20，21

マリヤが妊娠していることを知ったマリヤのいいなづけのヨセフは大変悩みました。その時、ヨセフにも御使いが現れて言いました。「ダビデの子ヨセフ。恐れないであなたの妻マリヤを迎えなさい。その胎に宿っているものは聖霊によるのです。」イエスとは「主は救い」という意味の名前です。イエスは罪のないまことの人であったので、十字架で私たちの罪を負い、すべての人の代表として身代りに神のさばきを受けて、罪からの救いを成し遂げてくださいました。

1コリント12：3

私達はイエスを救い主と信じるなら、すべての罪が赦され、永遠のいのちを受けて、神の子どもとされる特権が与えられます。(ヨハネ1：12)私達も「聖霊によって」のみ、「イエスを主」と告白することができます。そして、聖霊によって、神の子どもとして新しく生まれることができるのです。そして、「神が私たちとともにおられる。」というインマヌエルの祝福をいただいて、イエス様とともに生きる者となるのです。

私は主イエス・キリストを信じます

1. 私はまことの教師イエスを信じます

マタイ 5 : 3

イエスは人々に「心の貧しい者は幸いです。」と教え始められました。「幸いです。」は「私はあなたを祝福します。」という意味です。また心の貧しい者とは、自分の弱さ、足りなさ、罪深さを知っている人のことです。イエスはそのような人を祝福すると教えられました。イエスの教えは単なる道徳ではなく、イエスを信じる者を祝福するという、人々に神の救いを与える教えです。イエスはご自分が人々を祝福し、救うことができる救い主であると教えられたのです。

マタイ 23 : 13

イエスは人々に「幸いです。」と教えられましたが、また偽善の宗教家に対しては「忌まわしいものだ。」「わざわざいだ。」と教えられました。これは「幸いです。」と正反対の言葉であり、彼らの罪を指摘されたのです。そしてその罪の指摘は私たちにも当てはまります。私達は罪を持ったままでは、神の祝福を受けることはできません。そのためにイエスは、私たちの罪を十字架で負い、神のさばきというわざを私達の身代りに受けて、救いの道を開いてくださったのです。

2. 私は奇跡を行うイエスを信じます

マルコ 4 : 39

イエスは救い主として働く中で、何度も奇跡を行われました。荒れ狂う湖と風に対して「黙れ。静まれ。」と言うと、風はやみ、大なぎになりました。イエスが自然界や悪霊、病人そして死人に対して命じられると、奇跡が起こり、自然界はイエスのことばに従い、悪霊は出て行き、病氣は直り、死人は生き返りました。イエスは造り主なる神の権威と力を持っておられるので、超自然の奇跡を行うことができたのです。

マタイ 8 : 13

百人隊長のしもべが病気で苦しんでいた時、百人隊長はイエスのところに行き、「ただおことばをいただかせてください。そうすれば私のしもべは直りますから。」といいました。するとイエスは百人隊長の信仰に驚き、「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」と言われました。すると、ちょうどその時、しもべはいやされたのです。百人隊長はイエスの権威を信じました。私達も百人隊長の信仰に倣いましょう。イエスは今日も、「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりになるように。」と言われます。

3. 私は悪霊を追い出すイエスを信じます

マルコ 5 : 8

創世記 3 章を見ると、悪魔は最初から人を誘惑し、その結果、人は神に逆らい、罪を犯し、死ぬ者となったことがわかります。悪魔と悪霊(悪魔の手下たち)は今日も私達を誘惑し、私達の心を支配し、私達を罪と死の世界に引きずり込もうとしています。しかしイエスは、悪魔に打ち勝つ権威と力を持っておられます。イエスが「汚れた霊よ。この人から出て行け。」と命じると、悪霊は出て行きました。

マルコ 5 : 15

悪霊につかれた人は、墓場でみじめな生活をしていました。彼はだれからも愛されず、孤独で、絶望感の中で、自分を傷つけて生きていました。けれどもイエスが悪霊に出て行けと命じられると、悪霊は彼から出て行き、彼は正気になって座ることができました。イエスは彼を救い、彼は神の子どもとして新生し、イエスの弟子となることができました。イエスは今日もご自分を信じる者を救ってくださいます。

私はポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられたイエスを信じます

1. 私はポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受けたイエスを信じます

ヨハネ 19 : 16

ポンテオ・ピラトとは、26年から36年までローマ帝国のパレスチナ総督として働きました。イエスはローマ総督ピラトのもとで裁判を受け、ピラトはイエスに対して十字架刑を下しました。「ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け」とは、イエスの十字架の苦しみと死が歴史的事実であることを表しています。私達の信仰は、歴史的な事実としてのイエスの十字架と、十字架で死なれたイエス・キリストを信じる信仰です。キリストの十字架の死によって神の救いが完成したのです。

マルコ 8 : 31

イエスの十字架の苦しみを「受難」と言います。イエスは苦しみを受け、人々の手に引き渡され、捨てられ、殺されました。イエスは全くの無抵抗で苦しみを受けられました。イエスはそれまでは全能の力と権威をもって、人々を教え、奇跡を行い、悪霊を押し出されたのに、なぜ十字架では無力で、されるがままだったのでしょうか。実は、イエスは自らの意思で、されるがままに苦しみと死を受けられたのです。イエスはそのためにこの世に来られたからです。イエスは「多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるために」この世に来てくださったのです。(マルコ 10:45) そして、十字架上で、ご自分の使命を果たされたのでした。ですから、イエスは息を引き取られる前に「完了した。」と言われ、十字架上で救いのみわざを成し遂げたと宣言されたのです。

2. 私は十字架につけられたイエスを信じます

ガラテヤ 3 : 13

十字架は当時、極悪犯のみに適用された最も残酷な死刑の方法であり、ローマ市民は免除されました。イエスは何の罪も犯されませんでした。ユダヤの指導者のねたみと、指導者に先導された民衆の叫びと、総督ピラトの自己保身の裁判によって、十字架につけられました。けれども、聖書はイエスが木にかけられたことに特別な意味があると教えています。それは「木にかけられた者はすべてののろわれたものである。」という聖書の教えから、イエスは私達のために身代りにのろわれたものとなってくださったということです。律法は神の教えを守らない者にはのろいがあると教えています。のろいとは神の祝福がないことです。すべての人は神の教えを守ることができず、罪を犯し、神ののろいを受ける者となりました。けれども、イエスが十字架で私達の罪を負い、私達の代わりにのろわれた者となってくださったのです。その結果、イエスの十字架の死を自分のためと信じる時、私達は律法ののろいから贖い出されるのです。

I ペテロ 2 : 24

イエスは十字架上で私達の罪をその身に負われました。その結果、神のさばきがイエスに下り、イエスは十字架上で神に見捨てられ、のろわれた者になり、死なれたのです。イエスの苦しみは肉体的なものだけでなく、神から見捨てられるという霊的な苦しみがありました。しかし、その苦しみは私のため、あなたのための苦しみでした。イエスは私達の罪を贖うために、身代りに神のさばきを受けて死んでくださいました。イエスの十字架の死を自分のためと信じ、イエスを救い主と信じる時、私達は十字架によって完成した罪の赦しをいただくことができるのです。

私は死んで葬られ、よみにくだり、三日目に死人のうちからよみがえられたイエスを信じます

1. 私は死んで葬られたイエスを信じます

マルコ 15 : 42-47

イエスは十字架上で、息を引き取られて死なれました。死の直前に、イエスは「完了した」と言われました。それは、イエスの死によって、人類の罪の贖いが完成したからです。けれども、この時イエスの近くにいた女達にも、逃げてしまった弟子たちにも、その意味がわかりませんでした。また、イエスがよみがえらなかつたら、イエスの死によって神の救いが完成したことを証明することはできませんでした。その日は安息日の前日だったため、すぐにイエスのからだを墓に葬らなければなりませんでした。そこで、アリマタヤのヨセフが、思い切ってピラトにイエスのからだの下げ渡しを願いました。ピラトはイエスの死を百人隊長から確認した後、イエスのからだをヨセフに与えました。ヨセフは自分の新しい墓にイエスのからだを葬りました。イエスの葬りは、イエスが確かに死なれたことを証明しています。イエスの死は、女達にも弟子達にも本当につらく悲しい出来事でした。彼らは、これですべて終わったと思ったのです。

2. 私はよみにくだられたイエスを信じます

使徒 2 : 31、32 詩篇 16 : 10

よみ(陰府、ギリシャ語ではハデス)とは死者の世界のことであり、人は死んだ後、終末のさばきを待つ間、よみに置かれるのです。ではイエスがよみにくだられたとは、どういう意味でしょうか。それは、イエスは死後、本当に死者の世界にまで下られたということです。そして、死者の世界にくだられたイエスが、そこからよみがえられたことによって、死の内側から死を滅ぼし、死に勝利されたことを意味しているのです。救い主がよみにくだられること、そしてそこからよみがえられることは、詩篇 16 : 10に預言されていました。そして、ペンテコステの日に聖霊に満たされたペテロは、使徒 2 : 27、31でこのみことばを引用し、イエス・キリストはよみにくだり、そこからよみがえられたと証しました。イエスは死とよみに勝利して、よみがえられたのです。

3. 私は三日目に死人のうちからよみがえられたイエスを信じます

マタイ 28 : 5-7

金曜日にイエスは死んで葬られました。土曜日には何も起こらず、ただローマ兵がイエスの墓を守っていました。そして日曜日の朝、女達がイエスの墓に行くと、イエスのからだはなくなっており、御使いがイエスはよみがえったと告げました。そしてよみがえられたイエスは、その日弟子達に現れ、ご自分がよみがえて生きておられることを示されました。それから40日間、イエスは何度も弟子達に現れ、ご自分が生きておられることを示されました。イエスは確かに死からよみがえり、死とよみに勝利されました。そして、十字架の罪の贖いが完成したことを証明してくださったのです。また、よみがえられたイエスは、今も生きておられる救い主として、イエスを信じる者を救ってくださるのです。さらに、イエスのよみがえりは、イエスを信じる者にも死からの復活が与えられることの保証となりました。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネ 11 : 25)「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」(I コリント 15 : 20) イエスの復活によって、死は勝利にのめられたのです。ハレルヤ!

私は天にのぼり、全能の父なる神の右に座しておられるイエスを信じます。

1. 私は天にのぼられたイエスを信じます

使徒 1 : 3, 9

イエスはよみがえられた後、40日間弟子達に現れて、ご自分が生きておられることを示されました。そして、弟子達が見ている前で、イエスは天に昇られました。イエスの昇天は、イエスが天において今も生きておられることを意味しています。私達は死んでしまったイエスを信じているのではありません。今も生きておられる救い主イエスを信じているのです。イエスは今も生きておられるので、ご自分を信じる者を救うことができますのです。

マタイ 28 : 20

イエスは天に昇られる前に、「見よ。わたしは世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」と弟子達に約束されました。天に昇られたイエスは、イエスを信じる者といつも一緒にいてくださる救い主です。イエス様と呼びかける時、私達はイエスが共にいてくださることを覚えることができます。イエスは今日も私達の祈りを聞き、私達を助け、導いてくださる救い主です。

2. 私は神の右に座しておられるイエスを信じます

エペソ 1 : 20, 21

イエスは天に昇られて、神の右の座に着かれました。神の右の座とは、まず神の支配と権威の御座です。神はイエスを死者の中からよみがえらせ、神の支配、権威、権力、主権をイエスに与え、神の右の座に着かせました。イエスは今、天において神の権威をもって、すべてものを治めておられます。そして、完全に敵を征服するために、再びこの世に来られます。

ヘブル 4 : 14

神の右の座は、偉大な大祭司の御座でもあります。永遠の大祭司であるイエスは、私達の罪を贖うために、ただ一度罪のないご自身を、罪のためにいけにえとしてささげ、永遠の贖いを成し遂げられました。よみがえられたイエスは、天に昇り、永遠の大祭司として神の右の座に着かれました。そして、ご自分を信じる者を十字架の贖いによって救ってくださいます。また、イエスは罪を犯されませんでした。私達と同じように試みに会われたので、私達の弱さに同情して下さり、いつも私達のためにとりなして下さる大祭司です。

ヘブル 12 : 2

十字架を忍び、神の右に着座されたイエスは、私達の信仰の創始者であり、完成者です。そのお方から目を離さないで、イエスを見続けることが信仰の成長の秘訣です。罪を犯した時は悔い改めてイエスを仰ぎ、十字架の贖いを信じて、赦しをいただきましょう。イエスは私達のためにとりなして下さいます。また助けが必要な時には、大祭司イエスを通して、大胆に神の恵みの御座に近づきましょう。そして、いつでもイエスに倣って歩みましょう。

私はそこから来られて、生きている者と死んでいる者とをさばかれるイエスを信じます。

1. 私は再び天から来られるイエスを信じます

使徒 1 : 10, 11

よみがえられたイエスは、40日間ご自分が生きておられることを弟子達に示され、弟子達の見ていた前で、天に昇られました。すると、御使いが彼らのそばに立って、「天に上げられたイエスは、天に上っていかれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります。」と言いました。イエスが再びこの世に来られることを「再臨」と言います。イエスの再臨は旧約聖書にも預言され、またイエスご自身も弟子達に話されました。ヨハネ 14 : 28 でイエスは、「私は去って行き、また、あなたがたのところに来る。」と言われました。ではイエスは何のためにこの世に再び来られるのでしょうか。

2. 私は生きている者と死んでいる者とをさばかれるイエスを信じます

黙示 20 : 12

イエスがこの世に来られる目的は、生きている者と死んでいる者とをさばくためです。使徒信条で、このことばほど厳粛な思いにさせられるものはありません。再臨のイエスによる、すべての人に対するさばきを「最後の審判」と言います。ローマのシスティーナ礼拝堂に、ミケランジェロの最後の審判の絵が描かれています。中心には再臨のイエス、向かって左側には、イエスの救いにあずかって天に上げられる人々、右側には滅びゆく人々の姿が描かれています。最後の審判の時に、だれも自分は罪のない正しい人間だと神の前に証明することはできません。神の前にはすべての人は罪人であり、自分の罪に対する神のさばきを受けなければならないのです。けれども、再臨の主イエスのからだには、十字架につけられた傷の跡があります。イエスは私達の罪のために十字架で死なれたのです。ですから、イエスの十字架の救いを信じる者は、最後の審判によって滅びることはありません。むしろ、永遠の天の御国に入れられる救いの完成の時となるのです。

黙示 22 : 20

イエスを救い主と信じる者にとっては、イエスの再臨は救い主イエスとお会いする最高の時であり、救いの完成の時です。ですから、クリスチャンは主の再臨を待ち望むのです。主は私達を迎えに来てくださり、永遠の神の国に入れてくださいます。そして、イエスの天の御座に私達を招いてくださり、イエスとともに天の御国を治める者としてくださるのです。ですから、私達は「主イエスよ。来てください。」と祈りつつ、主を待ち望みます。そして、主がいつ来られても良いように、主のしもべとして忠実に主に仕え、イエスの福音を宣べ伝えます。イエスは言われました。「この御国の福音は全世界に宣べ伝えられ、すべての国民にあかしされ、それから、終わりの日が来ます。」(マタイ 24 : 14) 最後の審判の時に、一人でも多くの人が、すばらしい神の救いをいただくことができるように、福音を証しましょう。

マタイ 28 : 19

聖書は、神はただひとりであると教えています。同時に、神は父、子、聖霊の三人であるとも教えています。これは人間の頭では理解不能な神の性質です。この神の性質のことを三位一体と言います。イエスは弟子達に、「父、子、聖霊の御名によって、バプテスマを受けなさい。」と言われました。「父、子、聖霊」は三人ですから、通常の文法上では「御名」は複数形（英語では names）が正しい書き方です。けれども聖書は、「御名」を単数形（英語では name）で書き、「父、子、聖霊」は三人だが一人の神であることを示しています。聖書は、神が三位一体であることを教えているのです。イエスは、聖霊のことを「もうひとりの助け主」と呼ばれました。聖霊はイエスとは別の人格を持ちつつ、イエスと同じような助け主なる神なのです。

使徒 2 : 4

聖霊なる神は、父なる神、子なる神とともに永遠に存在し、天地創造のわざにも加わっておられました。（創世 1 : 2）聖霊は、旧約時代には預言者などの特別な人に臨まれました。けれども、終わりの日には、すべての信者に聖霊が臨まれると預言されました。（ヨエル 2 : 28, 29）そして、そのとおり、イエスの復活から 50 日目、またイエスの昇天から 10 日目のペンテコステの日に、聖霊がイエスの弟子達に下られたのです。その時、弟子達は聖霊に満たされ、イエスの福音を証しました。そして、その日から、イエスを信じるすべてのクリスチャンの心の中に聖霊が住まれるようになりました。聖霊は私達の心に住み、私達を助け導いてくださる神です。だからこそ、私達は聖霊を心の王座にお迎えし、聖霊に満たされ、聖霊の力によって生きることが大切なのです。

ヨハネ 14 : 26

聖霊は真理の御霊とも呼ばれ、私達を神のことばの真理へと導いてくださるお方です。聖霊はみことばを私達に解き明かし、私達の罪を示し、罪の悔い改めと主イエスへの信仰へと私達を導いてくださいます。聖書は、「聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です。』と言うことはできません。」と教えています。（I コリント 12 : 3）そして、罪を悔い改めて、イエスを信じた者には聖霊が与えられ、聖霊はその人の心に住んでくださいます。（使徒 2 : 38）そして聖霊は、日毎に私達にみことばによる養いを与えてくださり、私達の祈りをとりなしてくださり、私達がキリストに似る者となるように私達をきよめ、成長させてくださいます。また、私達が弱さを覚える時には、私達を慰め、助け、強めてくださいます。そして、私達がイエスの証人となるために力を与えてくださいます。聖霊は、私達が信仰生活を歩むために、いつも共にいて助けてくださる神なのです。

私はきよい公同の教会を信じます。

1. 私は教会を信じます マタイ 16 : 18

教会とは何でしょうか。教会とは教会堂という建物でも宗教団体としての制度でもありません。教会とはペテロの信仰告白にならう「信仰者の群れ」のことです。イエスは弟子達に、「あなたがたはわたしをだれだと言いますか。」と言われた時、ペテロは「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と答えました。するとイエスは、「あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。」と言われたのです。イエスが言われた「この岩」とは、ペテロが言った「イエスは生ける神の御子キリストです。」という信仰告白のことです。教会とは、イエスを神の御子キリストと信じる者の集まりなのです。教会は全体としてだけでなく、教会員一人一人がイエスを主と信じています。その信仰を共に集まって告白する信仰者の群れが教会です。神はイエスを信じる信仰によって、教会を罪と死から救い出してくださいました。ですから、ハデス（よみ）という死の力が支配する所さえも、教会には打ち勝てないのです。イエスを主と信じる信仰こそ教会の土台であり、教会の本質です。

2. 私はきよい教会を信じます I コリント 1 : 2

聖書は、イエスを主と信じるクリスチャンのことを、キリストにあって聖なるものとされた聖徒であると教えています。聖徒とはカトリック教会が教える聖人のことではありません。イエスが十字架で私達の罪を贖うために流された血によって、罪を赦され、きよめられた人のことです。キリストを信じて、神の前に義と認められた人のことです。教会は神の前に義と認められた聖徒の集まりなので、きよい教会なのです。けれども、聖徒にはさらに二つの意味があります。一つは、聖徒は、聖霊によってきよい者となるために成長し続けているということです。聖徒はこの世にあっては未完成であり、罪も弱さもありまだ持っています。しかし、聖霊はそのような私達を少しずつではありますが、確実にキリストに似る者に成長させてくださいます。このように教会は、今は未完成であっても、日々聖霊の助けによって、きよめられ続けている聖徒の集まりなのです。もう一つのことは、聖徒はやがて天に行く時に、完全にきよい者にされるということです。それは救いの完成を意味します。キリストは再臨の時に、救いを完成させてくださり、教会を完全にきよいものとして、天に迎え入れてくださるのです。

3. 私は公同の教会を信じます エペソ 4 : 16

聖書には、様々な地域教会のことが記され、それぞれの地域教会に宛てた手紙があります。けれども、聖書は教会は別々のものではなく、一つの教会であるとも教えています。その一つの教会のことを公同教会と呼びます。公同教会とは、時代や地域を超えた、すべての救われた者が属する普遍的な教会です。それに対して、地域教会は、ある時代のある地域に建てられた教会です。地域教会は歴史の中で、様々な教団教派に分かれてきました。これは一つの教会の中の多様性です。キリストのすばらしさは、多様性がなければ表現できなかったのです。けれどもまた、公同教会には、主にあって一つとされる一致があります。私達はイエスを主と信じて救われる時に、公同教会の一員となります。また洗礼を受ける時に、地域教会の一員となります。私達が公同教会の一員であると知る時、他の地域教会と協力して、この世の使命を果たしていくことができるのです。

私は聖徒の交わりを信じます。

ローマ 1 : 7

聖書はクリスチャンのことを聖徒と呼んでいます。聖徒とは、キリストを信じ、キリストの血によって罪を赦され、きよめられて、神のご用のためにこの世から聖別された人のことです。聖徒は神の召しによって、キリストを信じる信仰へと導かれたのであり、聖徒の立場は一方的な神の恵みの賜物です。ですから、聖徒とは立派な人のことではなく、また、カトリック教会が信じる「聖人」でもありません。聖徒は「罪赦された罪人」であり、聖化の恵みの中で聖い者に成長する途上にある者、そして、終わりの日に救いの完成を約束されている者です。

I ヨハネ 1 : 3

聖徒の交わりはまず、聖徒と神との交わりを意味します。「私たち(聖徒)の交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。」とあるように、聖徒は三位一体の神との交わりを持っています。キリストの十字架によって罪赦され、神の子どもとされたクリスチャンは、いつも三位一体の神との交わりの中に入れられています。主イエスは、私たちのためにいつもとりなし、父なる神の恵みの御座に招いてくださいます。私達は聖霊によって「アバ、父」と呼び、イエスの御名によって父なる神に祈り、神の子どもとしての特権に生きることができます。また聖霊は、祈りとみことばによって、私達を教え、導いてくださいます。聖徒が持っている神との交わりが、聖徒の交わりの土台であり中心です。

使徒 11 : 29

次に、聖徒の交わりは、主にある兄弟姉妹との交わりを意味します。キリストを信じて救われ、神の子どもとされた聖徒は、互いに主にある兄弟姉妹とされました。この主にある兄弟姉妹の交わりの中で、私達は互いに愛し合い、祈り合い、分かち合い、教え合い、助け合うのです。この聖徒の交わりは地域教会の中に存在するとともに、地域教会を越えて公同教会の中に広がります。初代教会時代、異邦人教会はききんにあったユダヤの兄弟姉妹を助けるために、援助物資を送って助けました。今日も聖徒の交わりは、世界中の教会の交わりの中に存在し、教団教派を越え、国を越えた交わりの中で、互いのために祈り合い、助け合います。

ヨハネ 4 : 23

聖徒の交わりは、礼拝の中に最もよく表されます。同じ信仰を告白する者が、共に神の前に集い、霊とまことによって神を礼拝する時、神を中心とする聖徒の交わりが実現します。また、聖餐式は聖徒の交わりを深く経験する時です。キリストを救い主と信じて洗礼を受けた人は、だれでも聖餐に招かれています。聖餐において、同じ主の食卓にあずかる時、キリストによって救われた一つの神の家族であることを経験することができます。

私は罪の赦しを信じます。

マルコ 2 : 5

イエスは、友人に担がれてきた中風の人に、「子よ。あなたの罪は赦されました。」と言われました。それを聞いた律法学者達は心の中で、「神おひとりのほか、罪を赦すことはできない。」とつぶやきました。イエスは彼らの思いを見抜き、『『あなたの罪は赦された。』と言うのと、『起きて、寝床をたたんで歩け。』と言うのと、どちらがやさしいか。』と言われて、中風の人をいやされました。そして、いやしの奇跡をもって、イエスは人の罪を赦す権威を持っていることを人々に知らされました。イエスにとっては、全能の力によって中風の人をいやすほうが、罪を赦すよりもやさしいことでした。なぜなら、人の罪を赦すためには、ご自分のいのちを罪のためのいけにえとしてささげなければならないからです。イエスが人の罪を赦す権威を持っておられるのは、イエスが十字架の死によって、人の罪を贖ってくださったからなのです。イエスの罪の赦しの宣言の土台には、イエスの十字架の死による罪の贖いがあるのです。

I コリント 15 : 3

聖なる神にとって、罪人の罪を赦すことは、難しいことでした。なぜなら、そのためには愛するひとり子のイエスを、すべての罪人の身代わりとして、さばかなければならなかったからです。イエスだけが聖く罪のない人として、罪のための完全ないけにえとなることができたのです。神は私達を愛し、私達を救うために、イエスにすべての人の罪を負わせ、すべての人の身代わりとして、十字架上でイエスをさばかれました。「キリストは、聖書の示すとおりに、私達の罪のために死なれた。」このみことばの背後には、父なる神と御子イエスの苦しみがあります。父なる神は私達を救うために、愛する御子イエスをさばかれました。イエスは私達を救うために、私達の罪のために十字架で死なれました。そして、罪の贖いを成し遂げてくださったのです。人間の罪の贖いは、キリストの十字架の死によって完成しました。それゆえに、イエスを救い主と信じる者の罪を、神は赦してくださるのです。

エペソ 1 : 7

聖書は「血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはない。」と教えています。(ヘブル 9 : 22) 人間の罪が神によって赦されるためには、いのちの代価が必要なのです。ただひとり罪のない聖いイエスは、完全な罪のためのいけにえとなって、十字架で私達の罪のためにいのちをささげ、血を流してくださいました。その血は私達の罪を赦しきよめる力があるのです。私達の罪のために十字架で死んでくださったイエスを、自分の個人的な救い主と信じる時、私達は「御子の血による贖い、罪の赦し」を神から受けることができます。罪の赦しは、私達が自分の行いによって受けることはできません。これは神の豊かな恵みによるものであり、ただキリストを信じる信仰によって与えられるのです。キリストが私の罪のために十字架で死なれたと信じ、キリストを救い主として心に受け入れて、神の豊かな恵みによって、罪の赦しをいただきましょう。

私はからだのよみがえりを信じます。

ローマ 6 : 5

キリストの十字架が自分の罪のためであったと信じ、キリストを自分の救い主と信じる時、私達はキリストにつき合わされます。その時、私達はキリストの死と結び合わされて、すべての罪が赦され、古い罪の自分に死にます。また、キリストの復活にも結び合わされ、新しいのちに生きる者とされます。そして、キリストが死からよみがえられたように、キリストの復活に結び合わされた私達も、死からよみがえることができるのです。

I コリント 15 : 20

パウロはキリストの復活を初穂と呼びました。初穂はその年の最初の収穫であると同時に、そのあとにある豊かな収穫を保証するしるしです。ですから、キリストが初穂としてよみがえられたということは、その後、キリストにあって死んだ者も必ず復活することを保証しているのです。眠った者とはキリストにある死者のことですが、彼らには復活による目覚めがあるので、眠った者と呼んでいます。キリスト者のからだは、死んで葬られて終わりではなく、からだのよみがえりがあるのです。

I コリント 15 : 44

私達はどのようなからだによみがえるのでしょうか。復活のからだは現在のからだとは全く違うものです。現在のからだは朽ちるからだ、卑しいからだ、血肉のからだです。それに対して復活のからだは朽ちないからだ、栄光のからだ、御霊のからだです。キリストを信じる者は、復活のからだによみがえります。そして、復活のからだは天にある自分のたましいと再び一つとされ、新しい神の国で永遠に生きることができるのです。

I コリント 15 : 52

からだの復活はいつあるのでしょうか。それはイエス・キリストが再びこの世に来られる再臨の時です。世の終わりのラッパがなると、キリストは天から地上に来られます。(I テサロニケ 4 : 10) その時、キリストにある死者は朽ちない栄光のからだによみがえり、私達は変えられるのです。私達はこの復活の希望を持っているので、キリストの再臨を待ち望みます。そして、「主イエスよ。来てください。」と祈ります。

私は永遠のいのちを信じます。

ヨハネ 3 : 16

ヨハネ 3 : 16 は聖書の中でも最も有名なみことばの一つです。神は世(私達)を愛してくださったので、神のひとり子イエス・キリストを私達の救い主としてお与えくださいました。イエスは私達の罪を負い、神のさばきを身代りに受けて十字架で死に、罪からの救いを成し遂げてくださいました。また、イエスは3日目によみがえり、天に昇り、今も生きておられる救い主です。ですから、私達がイエスを自分の救い主と信じ、イエスの十字架を私のためと信じるなら、私達のすべての罪を赦してくださいます。そして、神のさばきを受けて滅びることがないようにしてくださいます。さらに、私達に永遠のいのちをくださり、いつ死んでも天国に行けるすばらしい救いを与えてくださるのです。

ヨハネ 14 : 1、2

人間は自分が死ぬことを不安に思います。死後どうなるかについて、様々なことが言われますが、結局のところ死んでみなければわかりません。けれども、イエスは言われました。「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」キリスト教信仰とはキリスト信仰です。罪の赦し、からだのよみがえり、永遠のいのちを信じることは、イエスを信じることに他なりません。そのイエスが、「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。…あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。」と言われました。父の家とは天国のことです。そしてよみがえられたイエスは今、天国におられるのです。そしてイエスは、永遠のいのちを持つ人が死ぬ時、その人のたましいをすぐに天国に迎え入れてくださるのです。ですからクリスチャンにとって、死は天国の門なのです。

ヨハネ 14 : 6

イエスはいのちそのものです。イエスの内に永遠のいのちがあり、イエスを信じる者に永遠のいのちを与えてくださいます。ヨハネ 15 : 5 でイエスは、「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしのとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。」と言われました。イエスにとどまる時、イエスのいのちが私達のたましいに注ぎ込まれます。その結果、私達は永遠のいのちの実を結ぶ者となるのです。地上にあっては、神に喜ばれる永遠のいのちの実を結び、私達が死ぬ時には、天国に凱旋するという永遠のいのちの実を結ぶことができるのです。

ルカ 23 : 42、43

永遠のいのちの祝福を経験した人に、イエスと共に十字架につけられた犯罪人がいます。2人の犯罪人がイエスと共に十字架につけられました。一人はイエスを信じず、イエスをののしりました。けれども、もう一人はイエスを信じてこう言いました。「イエス様。あなたの御国の位にお着きになる時には、私を思い出してください。」その時、イエスは彼に言われました。「まことに、あなたに告げます。あなたは今日、わたしと共にパラダイス(天国)にいます。」その後、イエスもイエスを信じた犯罪人も死にました。けれども、彼のたましいはイエスと共に天国に行くことができたのです。私達もイエスを信じ、永遠のいのちを信じますと告白しましょう。